

○按ズルニ、五宮トハ、皇胤紹運録ニ、龜山天皇第五皇子ニ、守良親王アリテ、四品兵部卿ニ任ズトアリ、恐ラクハ此親王ナルベシ、

〔増鏡^{十七}〕^七花^七都には伯耆よりの還御とて、世の中ひしめく、まづ東寺へいらせ給て事ども定めらる、二條の前のおとゞ道平めしありて參り給へり、こたみ内裏へいらせ給べき儀、重祚などにてあるべけれども、[○]重[○]の箱を御身にそへられたれば、たゞとほき行幸の還御のまきにてあるべきよしさだめらる、[○]中[○]六月六日、東寺よりつねの行幸のさまにて、内裏へぞいらせ給ける、めでたしども詞なし、

〔皇年代略記^{後醍醐}〕^{後醍醐}建武三年^{元延}正月十日丁巳、依尊氏等東軍襲來幸山門^{寶所}、^{同渡御}以^大同三

十日丁丑、依東軍敗北、還幸洛陽、先幸成就護國院^{禪林寺南方、前天台座主二品前大僧也、}二月三日己

卯、幸入道右大臣^{○藤原}花山院亭^{是去月十日、二條}、同七日、賢所^{自山上渡御内裏、}五月廿五日庚午、

重幸山門^{敗軍自西國襲來}、十月十日壬午、重又幸花山院亭^{官軍雖無利、以和陸儀、}十一月二日、被奉

太上天皇尊號^{今日被渡劍璽於新}、

〔太平記^{十七}〕^{依堀口貞滿奏請暫停還幸事}

懸ル處ニ、内々^{○參考太平記、内々下、}使者ヲ主上^{○後醍醐}進ラセテ申サレケルハ、^{○中}主上是ヲ叡

覽アリテ、告文ヲ進ラスル上ハ、僞テハヨモ申サジト思召ケレバ、傍ノ元老智臣ニモ仰合サレズ、

應テ還幸成ベキ由ヲ仰出サレタリ、^{○中}義貞朝臣懸ルコト、ハ知給ハズ、參仕ノ軍勢ニ對面シ

テ、事無キ様ニテオハシケル處へ、洞院左衛門督實世卿ノ方ヨリ、只今主上京都へ還幸ナルベキ

トテ、供奉ノ人ヲ召候、御存知候ヤラント告ラレタリケレバ、義貞サル事ヤアルベキ、御使ノ聞誤

ニテゾ有ラントテ、最騒ガレタル氣色モ無リケルヲ、堀口美濃守貞滿聞モ敢ズ、^{○中}先内裏へ參

テ、事ノ様ヲ見奉リ候ハントテ、郎等ニ着セラレタル鎧取テ肩ニ投懸、馬ノ上ニテ上帶ヲシメ、諸